

### 私の意見

## 改正商取法について

MMGアローズ社長 藤田 栄作



我々の地盤を活かし、彼等の金融ノウハウを活用するという形で相互にメリットがあるのを包括的提携が実現しました。商品先物業界では初めての試みです。それが、たまたま、委託手数料の完全自由化、商品取引所法の大改正で業界が直面

以前の「当たり前」ともいえるモラルが守られなかったわけで、これは本当に残念なことでした。それによる信頼性の低下は甘受しなければいけません。2度と起きないようにするには法を改正し、運用を厳しくするのはやむをえないことでしょう。

これから、改正商取法に対応する政省令等の詳細がいろいろ出てくると思いますが、各論部分で言えば新取引証拠金については流動性確保の観点から、場勘定に充当できる部分では拡大していかねければなりません。株の投資信託と比べて運用実績がいいのに、資金が回ってこないのは、やはり、古くて新しいテーマの信頼の問題でしょう。これからこの問題を本気で是正しないと道は開けません。

この業界に入ってから10数年たちますが、従来、総論賛成、各論反対が多かったように思います。また、表と裏がありすぎるように感じています。今回の改正は、そのような考え方やビジネスモデルを根本的に変えないと生き残れないものだと思

## 厳しさを乗り越え挑戦を

### 1ヶタ違う業界に

40年以上の歴史を持つ「フジチュウ」の社名を2003年12月1日付で「MMGアローズ」に変更しました。パナマに本拠を構えてグローバルなビジネスを展開するモルガン&モルガン・グループ(MMG)の出資を受け入れたからです。

日本におけるグループ企業として、持株会社であるMMGホールディングス、去年新設の証券子会社のMMG証券を加え、3社体制を整えました。MMGは数年前から日本での活動の足掛かりとなるパートナーを探していたようで、当社も社名変更を含め新しい時代への対応を考えていました。

新しい時代とタイミングが重なりました。改正商取法のもとでは、心機一転、生まれ変わったつもりで業務に取り組みなると、やっていけないと考えています。2年続きで取引員の違約・破綻があり、そこでは委託者資産の分離保管がずさんだったことがはつきりしました。

一部取引員とはいえ、他人の資産を勝手に流用してはいけない——という法律

限り多いほうが良いし、純資産要件は各社各様の事情があるのであまり高いハードルは望ましくありません。何かにつけ、証券業界並みというものが出てきますが、業界規模も取引参加人数も大きな差がある点を考慮してほしい。

個人金融資産を商品先物業界に大きく取り込むには、やはり、専門家に運用をまかせるファンドが最も可能性があり、業界として

け止めています。預り委託証拠金4,000億、0.5、0.00億円の水準から最低でも0が1つ多い資金を預かれるような業界に成長しないと、「切った張った」の状況を抜け出せません。

これからどうするのか、最も大切で、2、3年のうちに我々のビジネスモデルの本質がどうあるべきかを見極めねばなりません。それが大いに進めば将来性が開けると確信しています。

### 新社長

#### 日本ユニコムは河島氏

日本ユニコムの新社長に6月29日、河島毅・取締役法人事業本部長が昇格し、就任した。経営陣の活性化、経営の効率化、国際化が狙い。内海健社長は代表取締役副会長に就任。



河島 毅(かわしま たけし) 東大工学部卒。68年三井物産入社、97年三井物産フェ

#### 1チャーズ社長、01年三井物産非鉄金属本部長、02年日本ユニコム入社、アクセス証券社長。

#### 協栄物産は池松氏

協栄物産の新社長に6月1日、池松和夫常務が昇格、就任した。山川幸太郎社長は取締役。



池松 和夫(いけまつ かずお) 81年協栄物産入社、91年大坂支店長、94年本店長、96

#### 年取締役、03年6月常務。43歳、岐阜県出身。

#### オリオン取引は篠原氏

オリオン取引の新社長に6月18日、篠原定功・取締役副社長が昇格、就任した。戸館勇幸社長は同日付で会長に就任。



篠原 定功(しのはら さだのり) 2000年オリオン取引入社、同年取締役を経て、02年副社長。56歳、徳島県

#### 入や萬成証券は丸山氏

入や萬成証券の新社長に6月25日、丸山喜代三専務が昇格、就任した。藤井史郎社長は相談役に就任。



丸山 喜代三(まるやま きよよみ) 68年山佐商事入社、97年大雄社先物取締役、02年萬成証券(現入や萬成証券)専務。55歳、愛媛県出身。

### 証言・戦後先物史

## 草創期の東穀取(4)

東京穀物商品取引所 元専務理事 森川 直司

初期の理事長はなかなかの人材が多かったようですね。

森川 初代が山崎種二さんで、設立時から昭和30年5月まで、2代目が木谷久一さんで32年5月まで、3代目が加藤兵八さんで36年5月まで2期勤められました。いずれも米問屋で、4代目に初めて

仲買人出の鈴木四郎氏(明治物産社長)が就かれまし



3代目は加藤さんですが、森川 山種さんを創生期とすれば木谷さんは発展期、加藤さんは収縮期の人でした。大正昭和の不況期を乗り越えてきた、不況に強かった人ですね。

## 思い出の理事達

山崎さんはいぶ俊約家だったようですね。

森川 ケチタネともいわれていました。えらいと思ったのは昼休みに来て取引所内の電気を消して歩いてたことです。ただ、忙しすぎるので、節約というのと、「100万円かかってた文房具を70万円にしろ」と、目の子算「だつたので、困りました。この結果、帳付けの紙質が悪くなり、書くとき破れてしまうのです。文句をいうと、目の前では「よい」とはいませんが、後でちゃんとしてくれましたね。単にケチではなく飲み込みが大変早かった。

木谷さんはいかがでした。

森川 木谷さんは大阪が本拠の米屋で、こだわりのない鷹揚な人でした。仕手に戦に荷担したり、お客の勘定を滞りたりする仲買人がいると、「少しぐらい悪いやつがいてもええのや。水清うし

て魚住ますや」と泰然としていました。

組合との交渉も山根さん任せ。山根さんが譲歩した時も、「わしはこう考えているが、任せただから、あなたの決めた通りでよい」といった具合でした。大手上が上場されたのも木谷さんが理事長の時でした。

加藤さんは14、15歳の時に奉公して以来の辞令を全部持っており、給金ももっぱら主人に預け、独立の時の資金にしたということです。「若い時は金をもたしてはいかん。世帯を持ったらそれなりの給与にする」といった古風な人で、なかなか上げてくれません。組合が不満定として強く要求すると、「わしの預かっている取引所からはこれ以上出せない。私個人が出す」といわれ、やむなく矛盾を収めたこともありました。偉いのは、この時、本当に自分が用意した金額を自分の姓と組合委員長の私の名で預金しておいて、1年後の満期の時に私にくれるというのです。まさか、私はそれをもたらせないので、職員親睦会で預かっておいて、三浦に寮をつくる時の基金にしました。(おわり)